

## 第58回高等学校卒業式 校長式辞要旨

春の訪れが待ち遠しいなか、本日は東洋大学附属牛久高等学校第58回卒業証書授与式を挙げるにあたり、ご来賓、保護者の皆様のご臨席をいただきまして、盛大にかつ厳粛に挙行できますことは、本校にとりまして喜びとすることころでございます。心より厚く御礼申し上げます。

また、保護者の皆様には、この六年間あるいは三年間、お子様とともに多くの苦難を乗り越えてこられたことと存じます。その御苦勞を思うとき、この卒業の日を迎える慶びは、如何ばかりかと、心よりお祝い申し上げます。

さて、ただいま卒業証書を授与いたしました524名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。皆さんの晴れの門出を心より祝福します。

皆さんの今の顔を見ていると、本校での勉強そして学校行事や部活動を通して見違えるような成長を遂げられたことを実感いたします。

世界的なコロナ禍もあって、今年度の卒業生には本校での生活の中で、十分な教育活動を進めることができなかつた部分があります。このことは、全国の中学生・高校生が体験していることとはいえ、学校として申し訳なく思っております。特に一貫コースの卒業生は、六年間の学校生活がコロナ禍で翻弄されてしまいました。最終学年の今年度はコロナ禍もようやく収束に向かって、行事予定通りの教育活動が展開できるようになりました。

さて、予測不可能な時代、正解のない時代をどう生きていくか。雑多な情報に満ち溢れ、情報過多の現代社会は、ビッグデータ、情報を活用しなければならないとされる時代ではあります。とはいえ、多くの情報に惑わされがちです。「待てよ」と立ち止まって思考の前提条件や、解決策についての妥当性、正当性をきちんと考察していくことが必要です。

物事の本質を見極める目、思考、判断が求められます。そのためには、学問の本源に遡って、本校の建学の精神「諸学の基礎は哲学にある」ことの意味を考えてほしいと思います。「なぜ、なぜ、なぜ！」を追究して、多角的な見方、捉え方のできる思考力ができるようにしてほしいと思います。これからの生きる指針としても大勢に流されることなく、「なぜ、なぜ？」の思考を重ねて行動してほしいと思います。

中国の戦国時代末の思想家・儒学者の荀子の考えをまとめた書物「勸学篇」(学問を勧める)の中に、「学は以て已むべからず。青は藍より出でて藍より青し」という言葉があります。

学問はこれで終わったと思っはいけない。

青は藍から取り出すが、藍よりも青い

染物の一つに、藍染めがあります。濃い青色になる、藍染めは、日本では浴衣や手拭などを染めるときに使われます。また、藍は毒消しの効果もあるようでアメリカでは、インディゴ、ジーンズの染料として多く利用されています。

染料の藍玉は、青味を帯びているものの、どちらかというとい黒い色です。この藍玉を溶かした藍甕には濃いドロドロとした黒っぽい緑色の液体が満ちています。ここに染めるべき反物を入れて引き上げると、最初は緑がかつた色が、空気に触れると見る見る鮮やかな青色に変わっていきます。これを繰り返して藍染めの作業は進み、反物は次第に薄い青色から濃い色になっていきます。

青は藍より出でて藍より青し

ここから転じて藍玉が教師、藍甕が学校に例えられ、卒業生を送る言葉として使われる言葉です。

卒業生の皆さん、高校は卒業しますが、

学は以て已むべからず

これで勉強が終わったわけではありません。大学等上級の学校に進む人が殆どですから、むしろここから本格的に学びを続けていくことになります。そして、一人一人が光り輝く、鮮やかな藍色、青色になってほしいと願っています。

中国の古典『三国志』の主人公諸葛孔明が自分の死の直前に息子に遺した書があります。「誠子書」といいます。「子を誠める書」と書きます。

国家を支え、皇帝を補佐する人物としての心構えを説いた文章ですが、その中で「澹白明志 寧靜致遠」という有名な言葉があります。その意味は

澹白 無欲でなければ

明志 大志を抱き続けることはできない

寧靜 じっくり構えなければ

致遠 大きな仕事は成し遂げられない

続いて、

夫れ、学は須く靜也、才は、須く学也。

学ぶにあらざれば、以て才を広むるなく、

志あらざれば、以て学を成すなし。

という一節があります。

学は須く靜也

靜、じっくり構えることで、学ぶことができる

才は、須く学也

才、才能は学ぶことで開花する

学ぶにあらざれば、以て才を広むるなく

学ぶことを怠ってしまうと、才能を高めることはできない

志あらざれば、以て学を成すなし

志がなければ、学問を完成させることはできない

学ぶことを怠ってしまうと、才能を高めることはできないし、志がなければ、学問を完成させることはできない。といった内容になるかと思います。

大きな志・希望と、学は以て已むべからず

常に学び続ける気持ちをもって、成長して欲しいと願っています。

これからの社会を生き、この社会を支えていくのは、皆さん卒業生の一人一人の力にかかっています。これからの皆さんの活躍に期待します。

改めて保護者の皆様、お子様のご卒業まことにおめでとうございます。自立を始めた我が子の成長に、一抹の寂しさを覚えつつも、思わず目を細めていらっしゃるのではないのでしょうか。

心からお喜び申し上げますとともに、六年間、三年間にわたり本校の教育方針をご理解いただき、ご協力いただきましたことを、本校教職員を代表して御礼申し上げます。

結びに、本日はご多用にもかかわらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様方に心より感謝と御礼を申し上げますとともに、今後とも本校の教育に変わらぬご支援を賜りますことをお願い申し上げ、式辞といたします。

2024（令和6）年3月1日

東洋大学附属牛久高等学校長 金澤利明